

# 協働論 I

ネットワークづくり

日時：平成20年1月27日（日） 10:00～12:00

講師：鹿住 貴之（JUON（樹恩）NETWORK 事務局長）

## 概況

---



### ■樹恩ネットワークについて

樹恩ネットワーク(以下、樹恩ネット)は、大学生協の呼びかけにより設立されたNPO法人です。都市と過疎地域を結び、過疎化・過密化による問題の解決に取り組み、循環型社会づくりを目指しています。

### ■樹恩ネットの協働・ネットワーク事例

異質なもの同士の出会いが、問題解決を生みます。そのような事例として国産間伐材製「樹恩割り箸」と森林環境教育プログラム「森林の楽校(もりのがっこう)」を紹介しました。

「樹恩割り箸」は間伐材を製材した時に生じる端材を用いて割り箸を作り、それを大学生協の食堂を中心に使用してもらおうという事業です。きっかけは、人手不足や木材価格低迷で間伐が行われなくなっている現状を踏まえ、間伐材を製品化して付加価値をつけて生協で販売しようというものでした。この事業では、使用した割り箸は洗浄せず回収しパーティクルボードとして再利用するだけでなく、林業に関するポスターを食堂に掲示するなど学生への啓発活動も行います。材料調達は森林組合、製造販売は山村の障害者福祉施設、利用は全国の大学生協がそれぞれ担い、樹恩ネットは調整役と普及を担当しました。この事業では、間伐が促進されるだけでなく、障害者に働く場を提供し、食器等の洗浄に使う水や排水を削減できるという利点があります。

「森林の楽校」は阪神淡路大震災のとき、間伐材製の仮設学生寮で生活する学生や建設に携わったボランティアと、仮設学生寮の資材を製造した山村の人が交流したことがきっかけで始まった事業です。当初は、森林への恩返しとして森林整備を行いました。その後、林業体験・地域文化に触れる、里山復元などの活動を、各地の協力団体と連携して行いました。

#### ■協働・ネットワークについて

ネットワークの特長は多様性です。その半面、様々な人たちが集まって作られるので、熱心な市民活動ほど仲間割れが多い？傾向があります。ネットワークには様々な規模(地域～都道府県～全国)やタイプ(地域・テーマ・分野に関するネットワーク)がありますが、大きく「交流型」と、時限性を持つ(=目的が達成された後関係を解消する)「問題解決型」の2つに分類する事ができます。ネットワークとして成功するには、一つのテーマを掲げ、時限性を持つことが重要だそうです。最後に、パートナーシップやネットワークの原則を紹介して講義を終えました。